

処理水放出方針「なぜ今」

与党内、衆院選控え動揺

福島第1

政府が13日にも、東京電力福島第1原発のタンクにたまる汚染処理水を海洋放出する方針を決定する見通しとなり、次期衆院選への影響を懸念する与党内に動揺が広がっている。首相官邸から福島など被災地選出議員への根回しもほぼなかったため、「なぜ今なのか」と菅義偉首相の判断をいぶかしむ声が少なくない。野党側からはさきそく反対論が出ている。

「海洋放出決定は」選挙が終わってからにしてほしい。東北の我々には逆風だ」。自民党の被災地選出議員の一人は8日、次期衆院選が厳しい展開になると嘆いた。7日午後、菅首相と全国漁業協同組合連合会の岸会長が首相官邸で会談し、海洋放出の方針が報じられると、党内では「急すぎる。全く連絡もない」と驚く声が続出。党幹部も直前まで「聞いていない」

と周辺に漏らし、決断のタイミングに首をかしげた。自民にとって福島県の選挙態勢は必ずしも盤石とは言えない。直近2回の衆院選では県内の5小選挙区のうち各2議席を野党候補に奪われ、各1議席の比例復活も許した。参院選でも19年は当時民進党から出馬した候補に敗れ、19年参院選は自民候補が勝利と拮抗している。

首相は昨秋の自民党総裁

選で、処理水について「関係者と相談して決断する時期に来ている」と語っていた。党幹部は「自分の手で片付けたいという思いがあったのだろう」と話し、首相が決断力をアピールしようとしているとみる。「いざれ処理水のタンクはいっぱいになる。どこかで決断は必要だ」（党重鎮）と評価する意見もある。

一方、自民のある関係経験者は「このタイミングで決断したところで、世間の反応は『よくやった』とはならない」と冷ややかだ。特に19年の参院選では、東北6県のうち自民の勝利は福島、青森2県のみ。次期参院選の「東北全滅」を危惧する見方も漏れる。

近年、福島の国政選挙を制したのは

※ は野党系が当選

参院選 福島選挙区

16年 19年
民進 自民

衆院選

2014年 17年

1区	自民	無所属
2区	自民	自民
3区	民主	無所属
4区	維新	自民
5区	自民	自民



選挙と並ぶ党内の懸念材料は、東京オリンピック・パラリンピックのイメージ悪化だ。首相側は「原発事故処理の加速化」を訴えたい考えだが、中韓両国などが福島県産品の輸入規制を続けるなど、原発事故に対する国際的な視線はなお厳しい。新型コロナウイルス

の感染拡大への対応なども含めて、「首相の対応はこここのところ、全部裏目に出ている。楽観的過ぎる」（関係経験者）と不満が出ている。

また共産党の志位和夫委

員長は8日の記者会見で、「東北の沿岸漁業が大変な時で、海洋放出には断固反対。決定を強行しないよう強く求める」と批判した。

【野間口陽、木下訓明、遠藤修平】